

# 心のケアへ 仮設を歩く

宮古市の盛岡YMCA宮古ボランティアセンターは15日、宮古市の赤前小体育館で震災後10回目となるふれあいフェスティバルを開いた。同センターの池田勝一センター長(56)は、全国からのボランティアをコーディネートし、被災者らから「桃太郎さん」との愛称で親しまれている。池田さんは孤独と闘う仮設住宅入居者の心のケアなどを課題に見据え、長期的な活動を目指している。

**宮古のボランティアセンター長・池田さん**

## 交流行事 10回目



フェスティバル参加者と笑顔で話す池田勝一さん(右)

ふれあいフェスティバルは、ミニ運動会が開かれ、仮設住宅などで暮らす高齢者から子どもまで約70人とボランティア約30人の笑みがはじけた。

池田さんもじゃんけんして自己紹介するゲームに参加。「まずは自分が名乗ることが大事」とボランティアの心構えを説き、気軽に自己紹介した。

池田さんは大阪YMCAスタッフなどを歴任し、阪神大震災でも支援活動に奔走した。4月下旬から宮古市大通の日本基督教団宮古

## 全国の奉仕者と共に

教会を拠点に活動している。

13日からボランティアに訪れている信越妙高ワイズメンズクラブ(新潟県)の福沢系司さん(63)は「池田さんは地域の人たちと密着して人と人とのつながりを大事にしている」と感心する。

震災から7カ月が過ぎ、池田さんは「心のケアを継続して、仮設住宅の隣近所をつなぐことが役割」と話し、「孤独死しないための心のケアとコミュニケーションづくりをしたい」と表情を引き締めた。

2011年10月16日(日)

岩手日報